

事業内容

I 診療部

1 各診療科

(1) 整形外科

脳性麻痺、二分脊椎など障害児の肢体不自由や変形などの改善を目的に、リハビリテーション、装具療法等を行っているほか、必要に応じて、入所後に手術治療なども行っている。

また、四肢の痙性の強い患者に対してはボツリヌス注射治療も施行しているほか、発育性股関節形成不全（先天性股関節脱臼）、内反足、O脚、側弯症などの小児整形外科疾患に対するギプス、装具、牽引、手術などの治療も専門としている。

さらに、骨系統疾患児や下肢長差の認められる患者には脚延長術も行っている。

(2) 小児科

一般病院の小児科とは異なり、小児期発症の神経疾患を専門としている。

初診年齢は0歳～18歳だが、状況により18歳を過ぎたケースにも対応している。

入所施設機能に加え、母子訓練入院、検査や治療目的の入院も行っており、特に、難治性てんかん患者への内科的治療に取り組んでいる。

また、人工呼吸器管理を含めた重度障害への対応を充実させ、在宅支援を積極的に行っている。

(3) 小児科メンタルヘルス

子どものこころ専門医が、子どもの行動発達の問題と心身症の専門外来を行っている。

初診年齢は中学生までとしている。

継続する場合はおおむね高校1年生までとし、その後医療が必要な場合は大人の科へ紹介する方針としている。

(4) 精神科こころのケア

精神科専門医が、子どもの心の問題について「こころのケア外来」という名称で診療および相談を行っている。

初診は原則として中学生までで、対象となるのは①知的障害を含む発達障害 ②発達障害を背景にした精神症状 ③発達障害以外の子どもの精神障害 の3分野である。

(5) 歯科

むし歯を生じさせないためには、良好な食習慣とハミガキやうがいを始めとした口腔衛生の維持が大切であり、様々な病気を持った子どもの口と歯の健康を、歯科医師と歯科衛生士が保護者の方と一緒に取り組み、口腔育成の視点からの診療を行っている。

治療が困難な子どもの場合には、静脈内鎮静法や全身麻酔を併用した歯科治療を行うが、通常の歯科治療が可能と思われる場合は、他の医療機関の受診を勧めている。

(6) リハビリテーション科

専門スタッフによる理学療法・作業療法・言語聴覚療法を行っている。各療法とも発達の遅れや障害のある方に対して適切な評価を行い、個々の特性に合わせた治療方針に基づいたリハビリテーションや支援を提供している。

(7) 耳鼻咽喉科

主に小児を対象として耳・鼻・のどの病気を診察・治療している。また、自宅での耳そうじが困難な小児に対しての耳垢除去も行っている。特に難聴に対する検査では脳波を検出する方法により0歳児から診断が可能となっている。

(8) 眼科

屈折異常(近視、遠視、乱視)、弱視、斜視、緑内障、白内障、先天異常、眼科手術後の経過観察、その他小児眼科全般の診療および治療に関する相談のほか、眼鏡処方や弱視治療も行っている。検査や診察が困難な子どもにも時間をかけて対応できるよう予約制としている。

(9) 常勤診療科医師(令和5年3月)

診療科	氏名	卒業年	専門医など
整形外科	島田 洋一	昭和57年	整形外科専門医、リハビリテーション科専門医、脊椎脊髄外科専門医、脊椎脊髄病外科指導医、脊椎脊髄病医
整形外科	三澤 晶子	平成7年	整形外科専門医、リハビリテーション科専門医、脊椎脊髄病医
整形外科	若林 玲奈	平成26年	
整形外科	渡辺 学	平成30年	
小児科	澤石 由記夫	昭和60年	小児科専門医、小児神経専門医、てんかん専門医指導医
小児科	渡部 泰弘	平成5年	小児科専門医、こどものこころ専門医
小児科	豊野 美幸	平成5年	小児科専門医、小児神経専門医
小児科	坂本 知子	平成25年	
小児科	平野 修平	平成24年	
歯科	本間 高志	平成20年	口腔外科認定医

(10) 外来診察担当表 (令和5年3月)

診察室番号		診療科	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2	午前	小児科	澤石	澤石	豊野	澤石	澤石
	午後	小児科		澤石		澤石	
3	午前	小児科	平山	平山		平山	豊野
	午後	小児科	豊野	豊野	稲見		豊野
4	午前	整形外科	三澤		三澤		三澤*1
	午後	整形外科			三澤		
5	午前	整形外科	坂本	坂本		坂本	坂本*2
	午後	整形外科		坂本		坂本	
	午前	泌尿器科					神田*3
7	午前	眼科					秋田大学 担当医師*4
	午後	耳鼻咽喉科					秋田大学 担当医師
	午後	小児外科				森井*5 渡部*5	
	午後	小児科 (腎臓)			土田*6		
8	午前	歯科	本間 今野	本間	本間	本間	本間 高橋
	午後	歯科	本間 今野	本間	本間	本間	本間 高橋
9	午前	小児科 メンタルヘルス	渡部	渡部*7		渡部	渡部
	午後	小児科 メンタルヘルス	渡部		渡部	渡部	渡部
	午前	小児科 (心臓)		豊野*8			
10	午前	精神科 こころのケア				室岡	
	午後	精神科 こころのケア	馬越*9			室岡	

(注) 表中の空欄は休診日、*印の外来診療日は以下のとおり。

*1: 第1・2・5金曜日

*2: 第3・4金曜日

*3: 第2金曜日

*4: 第1・3・5金曜日

*5: 第1・3木曜日(森井)

第2・4・5木曜日(渡部)

*6: (奇数月)第2水曜日

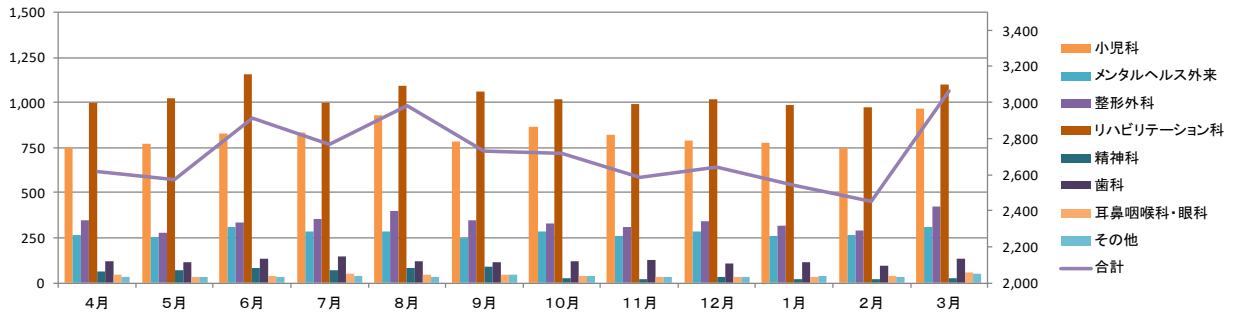
*7: 第1・3火曜日

*8: 第4火曜日

*9: 第1・3月曜日

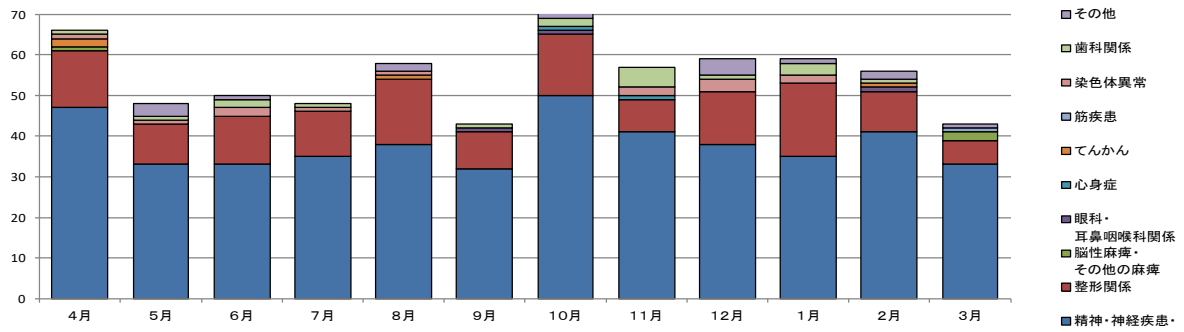
(1) 令和4年度の実績

① 診療別外来受診者数



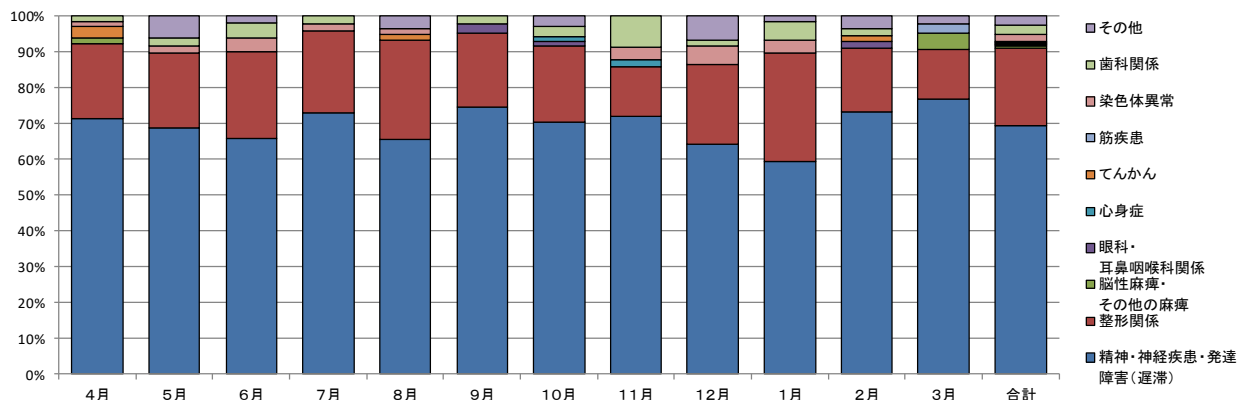
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小児科	749	773	826	834	929	781	868	819	789	776	743	969	9,856
メンタルヘルス外来	265	250	312	284	287	245	282	258	284	258	263	308	3,296
整形外科	345	277	337	352	395	349	330	309	341	314	291	421	4,061
リハビリテーション科	995	1,024	1,158	999	1,093	1,061	1,019	991	1,020	987	973	1,100	12,420
精神科	61	71	80	67	82	88	24	19	32	20	19	27	590
歯科	121	115	134	145	122	114	123	126	106	111	96	130	1,443
耳鼻咽喉科・眼科	44	30	36	48	45	45	36	30	35	35	37	57	478
その他	35	34	30	38	30	47	37	32	34	39	30	51	437
合計	2,615	2,574	2,913	2,767	2,983	2,730	2,719	2,584	2,641	2,540	2,452	3,063	32,581
前月比 (%)		98.4	113.2	95.0	107.8	91.5	99.6	95.0	102.2	96.2	96.5	124.9	

② 外来新患内訳数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
精神・神経疾患・発達障害(遅滞)	47	33	33	35	38	32	50	41	38	35	41	33	456
整形関係	14	10	12	11	16	9	15	8	13	18	10	6	142
脳性麻痺・その他の麻痺	1												2
眼科・耳鼻咽喉科関係						1	1				1		3
心身症							1	1					2
てんかん	2				1							1	4
筋疾患				0									1
染色体異常	1	1	2	1	1			2	3	2			13
歯科関係	1	1	2	1		1	2	5	1	3	1		18
その他		3	1		2		2		4	1	2	1	16
合計	66	48	50	48	58	43	71	57	59	59	56	43	658
前月比 (%)		72.7	104.2	96.0	120.8	74.1	165.1	80.3	103.5	100.0	94.9	76.8	

③ 外来新患内訳比率



	(%)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
精神・神経疾患・発達障害(遅滞)	71.2%	68.8%	66.0%	72.9%	65.5%	74.4%	70.4%	71.9%	64.4%	59.3%	73.2%	76.7%	69.6%
整形関係	21.2%	20.8%	24.0%	22.9%	27.6%	20.9%	21.1%	14.0%	22.0%	30.5%	17.9%	14.0%	21.4%
脳性麻痺・その他の麻痺	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.7%	0.5%
眼科・耳鼻咽喉科関係	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.5%
心身症	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
てんかん	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.5%
筋疾患	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.2%
染色体異常	1.5%	2.1%	4.0%	2.1%	1.7%	0.0%	0.0%	3.5%	5.1%	3.4%	0.0%	0.0%	1.9%
歯科関係	1.5%	2.1%	4.0%	2.1%	0.0%	2.3%	2.8%	8.8%	1.7%	5.1%	1.8%	0.0%	2.7%
その他	0.0%	6.3%	2.0%	0.0%	3.4%	0.0%	2.8%	0.0%	6.8%	1.7%	3.6%	2.3%	2.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

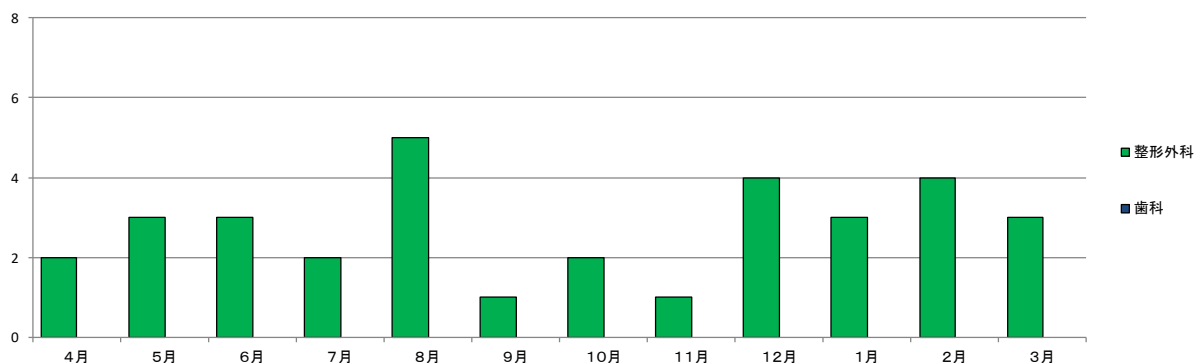
④ ボトックス施注数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施注人数	24	20	21	10	16	28	16	19	18	21	15	22	230

⑤ 補装具処方数

	(枚)
股装具	6
膝装具	8
短下肢装具	98
靴型装具	3
リハビリシューズ	3
足底装具	29
頸椎装具	3
腰椎装具	4
側弯矯正装具	49
上肢装具	17
車いす	61
電動車いす	7
歩行器	15
座位保持装置	20
座位保持いす	17
その他	30
計	370

⑥ 手術件数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形外科	2	3	3	2	5	1	2	1	4	3	4	3	33
歯科													0

⑦ 整形外科疾患別手術件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳性麻痺	2	2	1	1	2		2				3	1	14
二分脊椎													0
筋疾患										1			1
神経疾患													0
先股脱		1									1		2
筋性斜頸									2			1	3
内反足													0
その他			2	1	3	1		1	2	2		1	13
合計	2	0	3	2	5	1	2	1	4	0	4	3	33

⑧ 整形外科手術別件数

手術名	件数
股関節脱臼整復術	1
膝蓋関節脱臼整復術	0
股関節周囲筋解離術	19
膝関節周囲筋解離術	14
足関節周囲筋解離術	22
骨切り術（骨盤、大腿、下腿）	6
足部骨・関節手術	20
斜頸手術	3
内反足手術	0
その他（脚延長、抜釘など）	39
合計	124

⑨ 歯科治療件数

	件数
全身麻酔下	0
静脈内鎮静法下	28
モニター監視下	28
埋伏歯抜歯	1
合計	57

※延べ件数

II 薬剤部門

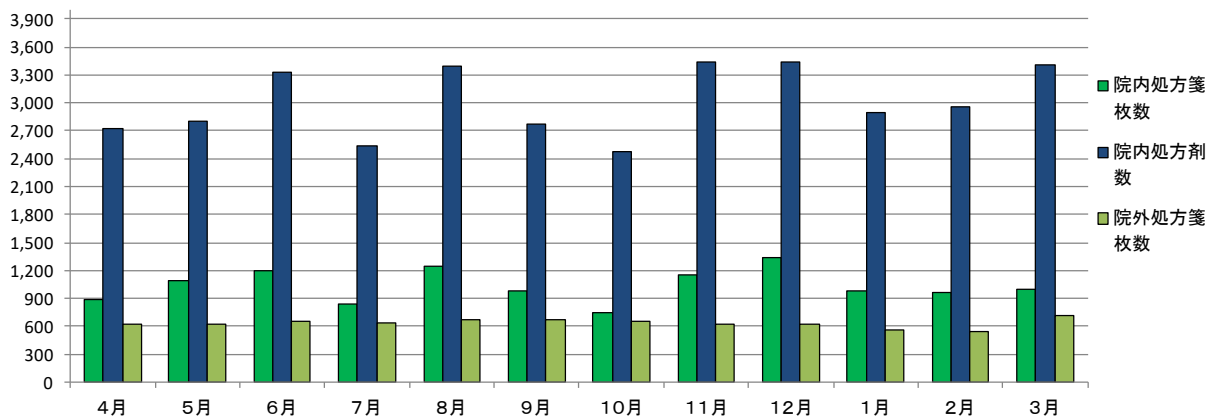
主に調剤・鑑査業務や病棟・外来・手術室の医薬品管理業務、医薬品情報管理業務、電子カルテの医薬品整備を行っている。また調剤時は電子カルテと連動したシステムを使用することで、用量や処方薬間の相互作用、重複投与の確認を行い、インシデントを防止している。その他、採用医薬品集の整備や後発医薬品への変更を推進することで、医療費の削減に努めている。

(1) 業務内容

- ・調剤・鑑査業務
- ・病棟・外来・放射線部門・手術室の医薬品管理業務
- ・医薬品情報管理業務（医薬品情報の職員への周知）
- ・採用医薬品の整備
- ・後発医薬品への切り替え
- ・チーム医療への参加（ICT、医療安全）
- ・調剤システムの構築と整備
- ・災害等を念頭に置いた医薬品在庫の適正化

(2) 令和4年度の実績

調剤件数



(枚, Rp)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
院内処方箋枚数	891	1,096	1,193	843	1,244	974	753	1,144	1,332	980	957	992	12,399
院内処方剤数	2,724	2,803	3,322	2,538	3,391	2,763	2,472	3,437	3,438	2,894	2,953	3,399	36,134
院外処方箋枚数	629	616	660	643	662	677	657	621	618	567	546	712	7,608
院外処方発行率 (%)	93.6%	94.8%	92.6%	94.1%	91.4%	94.0%	94.5%	95.7%	93.2%	94.8%	93.7%	93.9%	93.8%

内訳

(枚, Rp)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来院内処方箋枚数	43	34	53	40	62	43	38	28	45	31	37	46	500
外来院内注射処方箋枚数	42	42	55	26	40	53	33	45	43	45	31	36	491
入院処方箋枚数	395	355	435	400	450	424	375	472	427	367	406	436	4,942
入院注射処方箋枚数	411	665	650	377	692	454	307	599	817	537	483	474	6,466
外来院内処方箋剤数	78	59	89	69	111	82	91	50	93	74	77	103	976
外来院内注射処方箋剤数	42	42	55	26	40	53	33	45	43	45	31	36	491
入院処方箋剤数	2,193	2,037	2,528	2,066	2,548	2,174	2,041	2,743	2,485	2,238	2,362	2,786	28,201
入院注射処方箋剤数	411	665	650	377	692	454	307	599	817	537	483	474	6,466

Ⅲ 臨床検査部門

臨床検査は検体検査と生理機能検査に大別される。当センターでは、処理可能な検査は当センターで行い（自家処理）、その他の検査は外部委託している。

(1) 検体検査

- ・尿一般検査：尿の検査・糞便の検査等を行う。
- ・血液一般検査：自動分析装置を使い、赤血球数、白血球数、血小板数等を測定する。
- ・生化学検査：自動分析装置を使い、肝機能検査、腎機能検査等を測定する。
- ・血清検査：手術等で輸血が必要な場合の血液型（ABO型、Rh型）を調べ、交差適合試験を行う。
- ・薬物血中濃度検査：自動分析装置を使い、抗てんかん薬等の血中濃度を測定する。
- ・血液ガス検査：自動分析装置を使い、血液中の酸素濃度、二酸化炭素濃度、PH等を測定する。
- ・凝固検査：自動分析装置を使い、PT、APTT、Dダイマー等の凝固因子を測定する。
- ・簡易キット検査：簡易キットを使い、目的とする細菌・ウイルス（インフルエンザA&B、A群ベクター溶血連鎖球菌、RSウイルス、hMPウイルス、咽頭アデノウイルス、便アデノウイルス、便ロタウイルス、新型コロナウイルス）の検査をする。
- ・遺伝子検査：自動核酸検査装置を使い、目的とするウイルス（新型コロナウイルス）の遺伝子を検査する。
- ・外部委託検査：細菌検査、病理検査、遺伝子学的検査、自家処理不可能な検査等を委託する。

(2) 令和4年度の実績

- ・検体検査件数

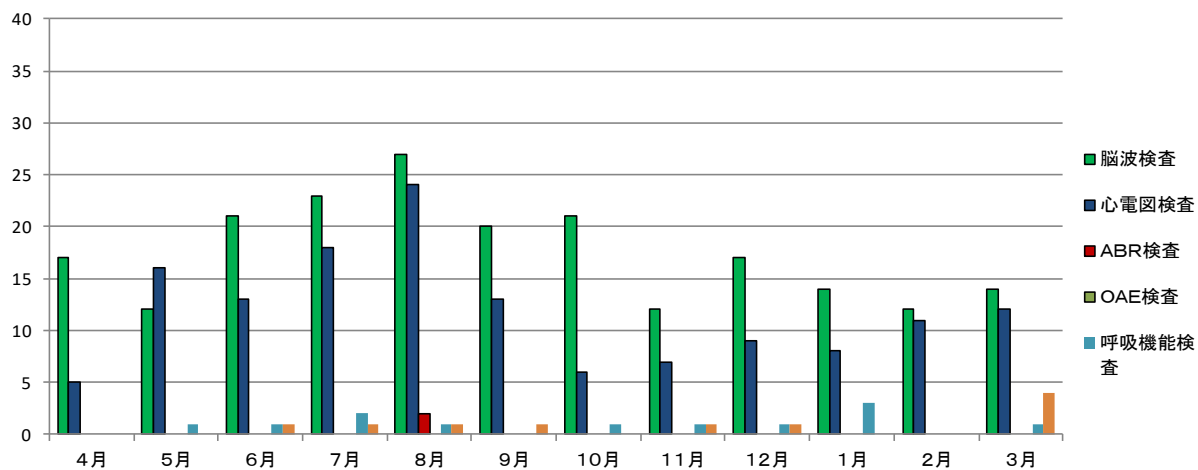
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
院内検査	尿一般検査	119	107	160	101	108	105	109	93	79	91	95	113
	血液一般検査	208	198	281	220	258	261	214	206	241	188	164	227
	生化学検査	1,418	1,431	1,977	1,565	1,680	1,758	1,408	1,374	1,491	1,247	1,129	1,516
	凝固検査	11	14	11	16	17	28	8	29	8	14	6	17
	血清検査	4	14	10	16	4	6	4	12	2	12	4	4
	薬物血中濃度検査	25	20	33	23	22	21	23	13	19	12	12	14
	簡易キット検査	3	6	5	1	3		1	2	4	2	6	7
	健康診断（尿検査）	32	23					11	5				
	その他の検査	16	18	9	8	11	19	11	29	19	18	15	16
外注検査	87	121	189	125	122	142	142	104	126	95	81	120	
細菌検査	18	25	22	16	19	44	28	28	20	27	9	21	

(3) 生理機能検査

- ・脳波検査・心電図検査・ABR検査・OAE検査・呼吸機能検査・起立試験
- ・筋電図検査（医師実施）・超音波検査（医師実施）

(4) 令和4年度の実績

・生理機能検査件数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳波検査	17	12	21	23	27	20	21	12	17	14	12	14	210
心電図検査	5	16	13	18	24	13	6	7	9	8	11	12	142
ABR検査					2								2
OAE検査													
呼吸機能検査		1	1	2	1		1	1	1	3		1	12
起立試験			1	1	1	1		1	1			4	10

IV 放射線部門

放射線部門で行っている画像検査は、CT、MRI(オープンタイプ)、X線撮影、透視撮影、歯科撮影、術中透視撮影などである。依頼科は、小児科、精神科、整形外科、歯科、耳鼻咽喉科、眼科と多岐にわたり、検査部位や検査項目も広範囲になっている。対象疾患でもっとも多いものは小児神経疾患及び小児整形外科疾患である。

なお、導入している放射線部門システムは電子カルテシステムと連携し、画像は各診療科や病棟の高精細端末や電子カルテ端末に配信されて、精度の高い診断及びインフォームドコンセントの促進に活用されている。

(1) 事業計画

- ・質の高い放射線技術の提供（疾患、障害、発達に応じた画像検査を提供する。利用者の質問、相談に対し、そのニーズを的確に汲み取り、EBMに基づいたインフォームドコンセントを実施する。）
- ・CT、MRI 等高度医療機器の効率的活用（他の医療機関と良好な連携を目指し、検査精度の向上を図る。標準化された各種の規格・運用指針に基づき、他の医療機関との連携強化に努める。）
- ・医療安全対策の推進（医療安全管理マニュアルをはじめ、感染防止対策マニュアルや医療機器安全管理マニュアルに基づいて業務を遂行する。）
- ・職員の資質の向上（最先端医療技術の成熟度に応じた医療水準を常に念頭に置いて技術の向上に努める。各種学会のガイドラインの導入を図り、確立された診療放射線技術を検証する。）

(2) 令和4年度の実績

- ・画像撮影件数実績

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
MRI撮影	3	5	11	10	10	12	8	3	0	3	7	9	81
CT撮影	4	7	7	3	8	6	4	10	5	2	5	4	65
X線撮影	86	69	86	92	134	88	83	76	90	105	80	123	1,112
回診撮影	21	25	28	22	28	27	20	15	21	19	9	14	249
X線透視・撮影	11	4	7	6	7	10	6	4	6	6	4	9	80
術中透視・撮影	2	3	3	2	5	1	2	1	4	3	4	3	33
歯科撮影	6	8	9	4	2	5	2	8	8	4	2	7	65
歯科術中撮影													0
画像提供	13	14	16	13	8	9	19	19	10	14	11	16	162
画像取込	11	11	12	11	13	12	22	18	12	18	14	10	164

V 臨床心理部門

(1) 臨床心理査定

発達及び知能検査、人格検査、その他心理検査を用いて、個人の独自性や個別の特徴、問題点の所在を明らかにする。また、得られた所見に基づいて、育児や発達、就学や学習等に関する相談、助言を行っている。

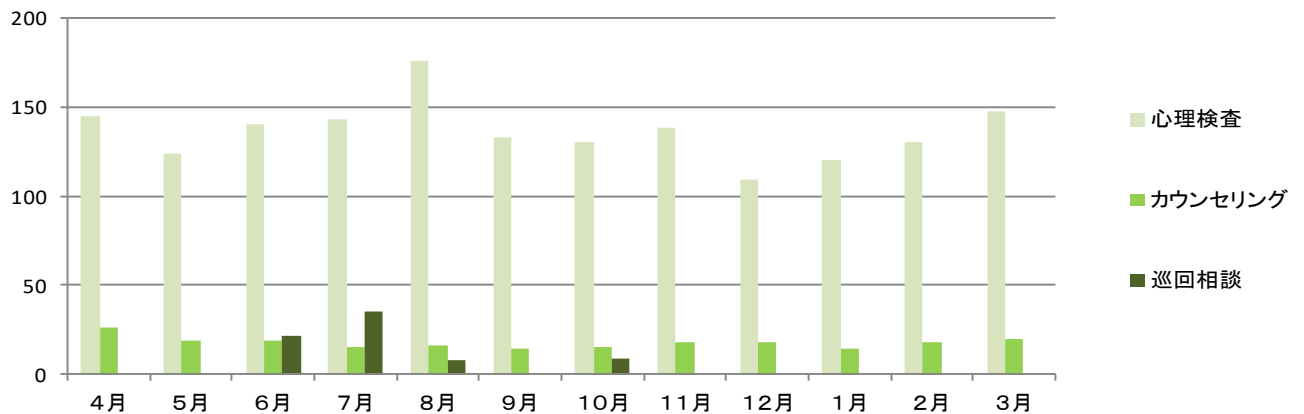
(2) 臨床心理面接（カウンセリング）

利用者の訴えに対して個人の価値観への尊重に基づいて関わり、これを取り扱う。また、利用者それぞれの特徴に応じて、遊戯療法や来談者中心療法、認知行動療法などの種々の心理療法をはじめとした臨床心理学的技法を用いて心理援助にあたっている。

(3) 臨床心理学的地域援助

個人のプライバシーを十分に守りながらも、同時にコミュニティ（家庭、保育園、幼稚園、学校など）全体を考慮した情報整理や環境調整を行っている。

(4) 令和4年度の実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理検査	145	124	140	143	176	133	130	138	109	120	130	148	1,636
カウンセリング	26	19	19	15	16	14	15	18	18	14	18	20	212
巡回相談			22	35	8		9						74

検査内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理検査 新規	31	35	16	12	15	19	19	26	18	24	41	30	286
心理検査 再来	114	89	124	131	161	114	111	112	91	96	89	118	1,350
カウンセリング 新規		3	1		1	1	2	2					10
カウンセリング 再来	26	16	18	15	15	13	13	16	18	14	18	20	202
巡回相談 新規			17	18	6		5						46
巡回相談 再来			5	17	2		4						28

判定書発行先

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児童相談所	25	11	18	29	30	19	24	25	16	20	12	20	249
その他						3	2						5

※H27年度より知能検査と人格検査をあわせて「心理検査」として報告する。H26年度までは知能検査に含まれていた「巡回相談」での検査件数をH27年度より「心理検査」と「巡回相談」にわけて報告する。

なお「巡回相談」とは療育支援事業のなかの在宅支援専門療育指導をさす。

VI 栄養指導管理部門

医療棟（母子入院含む）、医療型障害児入所施設（ひばり病棟・杉の子病棟）、医療型児童発達支援センター、福祉型児童発達支援センター、生活介護事業所、短期入所の利用者に、給食を提供している。

対象者は乳幼児期から青年期頃までと幅広く、食事形態も多岐にわたっているため、個々の発達状況に合わせた食事区分や食事形態を設け対応している。また、食物アレルギー除去食については、医師の診断のもと除去する食品の種類・程度を把握し、看護師・保育士・管理栄養士の連携を密にして個別対応をしている。

（１）献立作成・実施について

- ①素材を大切に味付けにする。
- ②季節感を盛り込む。
- ③各行事にあった献立を考える。
- ④盛り付け・配色などで変化をつけ「目で楽しむ食事」の提供。

（２）栄養指導について

- ①離乳食
- ②胃瘦ミキサー食
- ③ケトン食
- ④肥満
- ⑤幼児期の食生活（食教育）
- ⑥偏食

（３）令和４年度の実績

・棟別給食数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ひばり病棟	164	183	148	155	128	116	122	120	124	120	119	112	1,611
杉の子病棟	1,603	1,637	1,777	1,762	1,855	1,670	1,587	1,646	1,681	1,705	2,024	2,220	21,167
乳幼児通園	135	149	207	196	173	169	156	164	133	155	157	141	1,935
生活介護施設	73	67	79	72	73	75	69	64	60	49	58	70	809
付き添い	282	282	235	76	150	189	177	132	227	95	211	401	2,457
合計	2,257	2,318	2,446	2,261	2,379	2,219	2,111	2,126	2,225	2,124	2,569	2,944	27,979

※杉の子病棟（母子入院含む）

乳幼児通園・重心児者通園（昼食のみ提供）